

公益財団法人川野小児医学奨学財団

団体情報

代表者 (理事長) 川野 幸夫
住 所 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-10-1
WEB サイト URL <https://kawanozaidan.or.jp/>

財団設立に込められた想い。そして、それを可能にしたもの

平成の幕開けとともに、あゆみをスタートした川野小児医学奨学財団。その設立は一人の子どもの悲しい出来事がきっかけとなっています。現在当財団理事長である(株)ヤオコー会長川野幸夫は、1982年の秋に当時小学校2年生だった長男の「正登」を、ウイルス性脳炎という病気で亡くしました。当時、仕事のことしか頭になく、家族との生活の場がおろそかになっていた川野は、長男が亡くなった後「あの子は、お父さんを求めている」と妻から聞かされ愕然としました。そして、人の親として何もしてやれなかったことを、つくづく悔やみました。やがて月日が経つにしたがい、長男のような不幸な子どもを少なくするための活動をするのが自身に与えられた責務だと思ふようになり、「病気で苦しむ子どもたちを救う活動ができないか」と財団の設立を決めました。

その構想の実現を支えたのは、当時、川野が代表取締役社長を務める(株)ヤオコーの株式公開と、埼玉県医師会長・福島茂夫氏ら多くの方々の協力でした。川野は財団設立資金として、自身の持っていた(株)ヤオコーの株(当

時、約13億円相当)と私財3億円を寄附。また、事業を具体的なかたちにするため、福島茂夫医師らに理事としての参画を依頼しました。

「どうすればより多くの子どもたちを救うことができるのか」、思案の末にたどり着いたのは、患者に対する支援ではなく、患者を救う医学・医療を担う人々を支えるための取り組みでした。病気の子どもたちを救うためには医学・医療の発展は欠かせません。難病と呼ばれる病気の治療法が見つければ、一人の命だけでなく、その病気にかかる多くの子どもたちを救うことにつながります。そこで小児医学・医療の発展のために事業を行うことを決め、埼玉県の許可を得て実際の事業をスタートさせました。このような財団は全国的にも珍しく、



1990年、朝日新聞に掲載された設立発表の記事

医療関係者はじめ各方面から期待の声が寄せられるとともに、設立の様子は新聞各社に取り上げられました。設立 30 周年を迎

えた 2019 年度、行政庁を内閣府に変更し、より幅広い活動を行っています。

30 年間の活動を振り返って

「子どもたちの健やかな成長を実現したい」その想いを幹として、少しずつ活動の枝葉を伸ばしてきた 30 年。設立当初 2 つだった事業は、現在 6 つになっています。

1990 年、小児医学・医療分野の研究に日夜励む研究者をサポートするため研究助成事業を開始。研究の幅が広がり続けているとともに、年々研究費の獲得が難しくなっていることもあり、事業開始から現在に至るまで、応募者数、交付者数は増え続けています。2018 年度までで研究助成金の交付者数は延べ 478 名、総額は 7 億 5,400 万円に達しました。

同じく 1990 年に、小児医学界における将来の担い手を輩出することを目的として、小児医学を志す医学生に対する奨学金貸与事業もスタートしました。奨学生として選ばれた医学生に月 6 万円の奨学金を無利子で貸与しました。2010 年には、将来も経済的な不安を抱えることなく学業や研究

に邁進できるよう、返還義務のない給付型へと制度変更に踏み切りました。2015 年からは全ての奨学生が給付型の奨学金を受けています。

その後、1992 年には医学会に対する助成、1995 年には小児医療施設に対する助成を開始。そして財団設立 10 周年という大きな節目を迎えた 1999 年、小児医学川野賞を創設しました。この賞は、基礎医学、臨床医学、社会医学分野の研究で優れた業績を上げ、その後の活躍も大いに期待できる研究者を表彰するものです。創設から 19 年、受賞者は 39 名に上ります。歴代の受賞者の顔ぶれを見ると、今まさに日本の小児医学界を背負って立っている方々ばかりです。

さらに設立 30 周年を迎えた 2019 年度、これまで当財団が築いてきた医師や研究者とのつながりを、それを必要とする方々へ役立てることができるのではないかとこの考えから、新しい事業の開始を決定。教育現場で子どもたちに向き合い、成長の支援をしている養護教諭に対する事業をスタートさせました。具体的には、養護教諭が児童生徒の抱える健康上の問題について学び考え、知識を深めるために行っている研修会に、当財団が仲介役となり、小児科医を中心とした専門家を講師として派遣します。



奨学生証書授与式の様子

当財団は設立当初知名度の低い財団でしたが、この30年間の活動の積み重ねが実を結び、小児医学界においても徐々にご評価を頂けるようになってきています。ここまで事業を続け、財団として成長することができたのも、寄附者からのご支援をはじめ、運営にご協力くださる関係者やご意見や期待のお言葉をくださる皆様のおかげに他なりません。去る9月7日には、これまで当財団を支えてくださった方々に感謝申し上げます設立30周年記念式典を開催

し、約200名のゲストにご出席いただきました。その際、会場内に設置したメッセージフラッグには当財団から支援した研究者や医学生からの感謝の気持ちや、ゲストの方々からの期待の言葉がつつられていきます。当財団のあゆみを共に築いてくださった皆様の想いをしっかり受け止め、今後もかけがえのない子どもたちのために財団としての役目を着実に果たしていきたいと思

「文章 公益財団法人川野小児医学奨学財団 事務局」



設立30周年記念式典で寄せ書きいただいたメッセージフラッグ

アニュアルレポートや設立30周年記念誌は当財団ウェブサイトよりご覧いただけます
<https://kawanozaidan.or.jp/report/>